



2020年(令和2年)9月18日発行

特定非営利活動法人
あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp

<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

あきたスギッチファンド

通信 No.36

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため様々な活動が制限され、多くのNPO活動にも影響が出ています。スギッチファンドも必要最小限の活動に止めざるを得ない状況です。

今年度最初の本ファンド助成事業では、急遽特別枠として「新型コロナウイルス対応緊急支援ファンド」を設けました。募集9団体に対して14団体から応募があり、7団体へ助成することに決定しました。

このように市民生活を支援する多くのNPOが苦境に陥っている現実に、秋田県はNPO等が今後の「新しい生活様式」に対応した活動を展開できるようにという趣旨で、スギッチファンドに補助金を託してくれました。早速「秋田県『寄り添う市民活動』緊急サポートファンド」を組成しました。7月23日から募集したところ、募集14団体に対して19団体から応募がありました。9月13日公開審査会を実施し、14団体への助成が決定しました。

あきたスギッチファンドの活動(4月~9月)

4月24日	総会	於：パーティーギャラリー・イヤタカ
5月19日~6月19日	第23回本ファンド助成事業	募集
5月27日	秋田ロータリークラブ様より「第40回歯車賞」受賞	於：秋田キャッスルホテル
7月19日	第23回本ファンド助成事業	審査会 於：遊学舎
7月23日~8月25日	秋田県「寄り添う市民活動」緊急サポートファンド	募集
9月13日	〃	審査会 於：遊学舎

* スギッチファンドの8月末現在の寄付金総額は、574,692円です。
多くの皆様のご支援に感謝申し上げます。

秋田ロータリークラブ様 より「第40回歯車賞」受賞

歯車賞は秋田ロータリークラブ様が地域の発展に貢献した個人や団体に贈っている賞で、今年度は当法人が受賞となりました。

今後の予定

9月28日	第18回チャリティ・ゴルフ コンペ in 椿台	於：秋田椿台カントリークラブ
10月5日~11月5日	第24回本ファンド助成事業	募集
12月5日	第24回本ファンド助成事業 審査会	於：遊学舎

第23回本ファンド（2020年度第1回）助成事業決定

第23回本ファンド助成事業では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため多くの団体の活動が影響を受け困難を抱えていることから、急遽特別枠として「新型コロナウイルス対応緊急支援ファンド」を設けた。5月19日～6月19日に本ファンド、緊急支援ファンド、さらに秋田銀行行員有志からの資金提供による冠ファンド「秋田未来づくりファンド」と秋田魁新報社からの寄付金で組成した冠ファンド「秋田魁新報社がんと生きるファンド」の募集を行った。

選考委員は、昨年度に引き続いて下表の委員に審査をお願いした。

安宅 英男	株式会社秋田魁新報社 総務局総務部部長
鎌田 晶子	秋田県企業活性化センター 秋田県よろず支援拠点コーディネーター
佐々木 美奈子	NPO法人いきいきFネット秋田 理事 秋田県男女共同参画センター センター長
須磨 武	秋田県あきた未来創造部 地域づくり推進課 地域協働推進班 主幹（兼）班長
沼倉 充	NPO法人秋田県南パソコン支援市民ネット 副理事長
三浦 美由紀	E n - L i n k 代表 （北秋田市）
渡邊 靖	秋田商工会議所 まちづくり推進課課長

（アイウエオ順）

応募件数が多く、一次審査（書類審査）の段階から選考は困難を極めた。

7月19日（日）遊学舎での公開審査会では、件数も多く、プレゼンテーションを各団体説明10分、質疑応答5分で実施した。午前中に冠ファンドのプレゼンテーションを実施。秋田銀行の冠ファンドの審査には、秋田銀行地域価値共創部の伊藤晋宏氏に加わって頂いた。秋田魁新報社の冠ファンドの審査については安宅委員に兼ねて頂いた。秋田未来づくりファンドは、20万円コースは応募がなかったが30万円コースには2件の募集に対して5件の応募があり、良い提案が多く、選考には時間を要した。秋田魁新報社の冠ファンドは1件の申請があったが採択されなかった。11時30分に講評と審査結果を発表し冠ファンドの部を終了した。

午後は12時50分から3時30分まで本ファンドのプレゼンテーションを行い、その後選考委員による検討協議に入った。10万円コース、コロナウイルス緊急サポートファンドはプレゼンテーションがなく書類審査の結果を基に協議した。緊急サポートファンドは何れの応募からも困難な状況が窺われ難しい選考となった。プレゼンテーションを行った30万円コース、50万円コースは実績のある団体だけでなく新しい団体からの提案もあり、どちらも応援したい気持ちにさせられたが、絞らざるを得ず残念だった。次回の募集に頑張ってもらいたいと思う。

募集、応募、採択状況

助成額	募集件数	応募件数	採択件数
本ファンド 上限10万円コース	2	2	2
上限30万円コース	2	4	2
上限50万円コース	1	5	1
コロナ緊急サポート 上限10万円	6	5	2
上限20万円	3	9	5
冠ファンド 秋田未来づくりファンド			
上限20万円コース	1	0	0
上限30万円コース	2	5	2
冠ファンド がんと生きるファンド			
上限10万円コース	2	1	0

採択団体

本ファンド

10万円助成

団体名 比内地鶏応援プロジェクト（大仙市）
事業名 比内地鶏応援プロジェクト



秋田県立大曲農業高等学校 農業科学科 畜産専攻班の高校生が、比内地鶏に関連する関係者（秋田県畜産試験場、秋田県地域振興局、秋田県立大学、株式会社ヤマダフーズ）と協力して、新しいエコフィードを開発する。それを比内地鶏に与えて肉質や卵質の改善を図り、それを商品化する。

県内の比内地鶏生産者や販売者の経営面からの支援に繋がることを目指す。

団体名 ままちょこ（由利本荘市）
事業名 由利本荘で子育てつながるコミュニティ事業

由利本荘地域で子育てする親たちに、親同士のつながりを築き、地域資源を取り入れた、豊かな生き方を提案したいと考えて活動している。今回は地域を知る、人を知るための講座4回と、親同士の交流会「おしゃべりカフェ」4回を実施する。子育てする親が子育てだけにとらわれずに、由利本荘地域でより楽しく生活できるきっかけを作っていきたい。

30万円助成

団体名 グレープネット・ゆり（由利本荘市）
事業名 CPA トレーナー養成講座と講師研修会

当団体は主にひきこもり、不登校の青少年に対して、スポーツ・芸術・校外学習等の教育支援を中心に活動している。ひきこもり、不登校に至るのを防止するためには、円満な家庭作りが必要と考えており、今回は CPA トレーナー養成講座「イライラしない子育て法」を開催する。保護者や幼児教育担当者向けと、一段上の講演講師の資格を目指す「講師研修会」を実施する。この学びが不登校、ひきこもりの減少、ひいては生活保護受給者の減少につながっていくことを目標とする。

団体名 由利本荘にかほ市民が健康を守る会（由利本荘市）
事業名 カフェからはじまる町づくり！～Society5.0～

当団体は昨年度まで多種類のカフェを定期開催してきたが、COVID19の影響により、開催できない状況にある。しかし安全を担保しながらカフェを再開する必要があると感じている。今回は由利本荘市のカフェレストランを借り切って、イノベーションを起こすために ICT を導入した新しい形態のカフェを構築したい。認知症の人と家族のつどい、がんカフェ、疼痛カフェ、ケアカフェ、子供食堂等を定期的で開催することで、カフェ間で有機的な連携からイノベーションを模索する。医療・介護・福祉関係者、患者やその家族、町おこしを実践している市民、町内会、県立大学学生と連携して実施する。

50万円助成

団体名 聴覚障がい者のための観光マップを作ろう会（仙北市）
事業名 聴覚障がい者のための観光受入整備事業



仙北市は全国でも有数の観光地であり、多くの観光資料があるが、障がい者に必要な情報はほとんど入っていない。そこで聴覚障がい者に特化した観光マップを作製して「聴覚障がい者に優しい観光地」として全国に情報発信することを目的とする。

前年度に試作したマップの内容を検討するとともに、参加施設数を増やし、仙北市全域をカバーしたマップとする。また宿泊施設の「室内信号装置」を増やしていきたい。この取組を通して仙北市が“障がい者に優しい地域”として評価が高まり、さらに「障がい者や高齢者にも優しい観光地」として「仙北市モデル」形成に繋げたい。



新型コロナウイルス感染防止のため、審査員たちもソーシャルディスタンスをとっています。

「新型コロナウイルス対応緊急支援ファンド」

10万円助成

団体名 あきた結いネット（秋田市）
事業名 生活困窮者支援基盤強化事業



コロナ禍で生活困窮者、身寄りのない人たちの様々な相談が増加することが予想される。それに対応するため、パソコンの増設、リモート対応整備を行い支援基盤の強化を図る。

団体名 まちなかトープ（北秋田市）
事業名 まちなかこども食堂の開設



北秋田市中心市街地に子ども食堂を開設する。子ども食堂は月1回、そのほか子どもたちの遊び場なども企画する。この事業を通して、コロナ禍で子育て環境が変化する状況下、緊急時にも子どもたちを守る組織づくりを図る。

20万円助成

団体名 トワイライトリレーコンサート実行委員会（秋田市）
事業名 リレコンチャンネル開設



例年アマチュアミュージシャンが入れ替わりのリレー形式で出演するコンサートを実施してきたが、今年はコロナ対策で集客が制限されている。今回はフェイスブック、ユーチューブ等で動画を配信するリレコンチャンネルを開設し、リレーコンサートを継続したい。ミュージシャンの活動やネットワークを維持し、さらにより多くの人にトワイライトリレーコンサートを広めることができる。

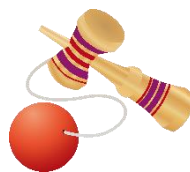
団体名 eナビステーションりあん（能代市）
事業名 地域と遠隔地を繋げる家族の問題オンライン構築事業

空き家相談、見守り相談、終活相談など、地域に住んでいる親世帯と遠隔地に住んでいる子世帯の間には多くの複雑な問題がある。昨今のコロナ禍で高齢者の孤立が懸念されるが、当法人がオンライン機器を整備して高齢者に寄り添い、安心して遠隔地の子世帯と連絡を取りあえるようにする。この取組みを進めて、遠隔家族の諸問題の解決システム構築に繋げていきたい。

団体名 あきた花咲く教師力ネット
事業名 杉山登志郎先生に学ぶ虐待啓発セミナー

親と教師のための教え方セミナーを毎年実施してきたが、コロナウイルス感染拡大防止のため2月から中止になっている。今回オンラインに切り替えてセミナーを開催する。子どもの虐待防止について意欲的に活動している浜松医科大学ドクター杉山登志郎先生の講演やシンポジウムを中心に、**ZOOM**を使って参加者200人規模でオンラインセミナーを実施する。

団体名 あきた冒険遊びfrog（秋田市）
事業名 あきたけん玉広場事業



コロナ禍で例年の活動が制限を受けているので、1人でも集団でも密にならずに遊べる「けん玉」を新たに活動に取り入れていく。そのため、けん玉の講習や検定を実施して講師や検定員を増やし、けん玉を広く知らせる冊子を作るなど、新しい活動の基盤を作る。「けん玉」を次年度以降の法人の中心事業として広めていきたい。

団体名 横手フットボール倶楽部（横手市）
事業名 プロコーチによるオンラインコミュニケーショントレーニング

コロナ禍にあっても、身体的・能動的トレーニングを継続していくため、オンライントレーニングを取り入れる。**ZOOM**を使用して自宅のパソコンやスマホの前でトレーニングを実施する。ネット環境のない利用者には通信機器の貸し出しを行う。月1回の各分野のプロコーチのレッスンで、トレーニング効果を高めていく。

冠ファンド 秋田銀行行員有志による

「秋田未来づくりファンド」

30万円助成

団体名 多胎サークルひなっこクラブ（秋田市）
事業名 ふたご・みつごの母子手帳を作りたい



秋田県では多胎児の出産が年間約50組あり、年々増加傾向にある。多胎児の出産はリスクが高く、妊娠期からの支援、啓発活動が重要である。今回は、医療機関、行政、NPOが連携して、多胎児妊娠・出産の正しい情報を載せた母子手帳を作成する。手帳の作成を通して、医療機関、行政、NPOの情報統一ができ、スムーズかつ迅速な支援ができるようになる。

団体名 ここはぐ（秋田市）
事業名 一緒に学ぼう！お母さんの応援サポート事業

コロナ禍で、産前産後に必要な知識を学ぶ機会が少なくなり、不安を持つ母親が増えている。そのような状況を改善するために、産前産後のママの勉強会や、臨床心理士による勉強会などを開催する。当法人には、スタッフとして臨床心理士や助産師、子育て経験者が多数おり、そこを活かして病院では学べないことや相談できないこともじっくり話し対応できる環境を作って、秋田の出産・育児を支援していく。

秋田県「寄り添う市民活動」緊急サポートファンド 募集開始！！

新型コロナウイルスの感染拡大により、市民生活の停滞が余儀なくされ、今後「新しい生活様式」の実践が求められている中で、地域課題の解決に向けた市民活動等を対象にした、民間団体が行う活動を秋田県の補助金を活用し支援するファンドです。

募集期間・助成スケジュール・問い合わせ

募集開始	7月23日(木)
応募締切	8月25日(火) 締切厳守 当日必着
公開審査会(日時)	9月13日(日)
〃 [会場]	造学舎 会議棟
概算請求	9月14日(月)～10月14日(水)
事業期間	9月14日(月)～2021年2月28日(日)

助成額	助成率	件数	審査方法
上限20万コース	10/10	10団体	1次:書類審査
上限30万コース	10/10	4団体	2次:公開審査会 プレゼンテーション

応募・問合せ

- NPO法人秋田県民NPO支援センター ☎0186-69-8553
- NPO法人秋田県民NPOセンター ☎0182-33-7002
- NPO法人あきたパートナーシップ(造学舎) ☎0186-823-5801

※お電話でのお問い合わせは受付できません



「寄り添う市民活動」緊急サポートファンド

新型コロナウイルスの感染拡大により、市民活動の停滞が余儀なくされ、今後新しい「生活様式」の実践が求められる。地域課題の解決に向けた市民活動等がそれに対応できるように、秋田県からの補助金を原資に、民間団体が行う活動を支援するファンドを組成した。7月23日(木)～8月25日(火)に募集し、9月13日(日)に公開審査会を実施した。

応募件数が多く、発表、審査ともに時間を要したが、ほぼ計画通りに進めることができた。

30万円コースは募集4件に対して応募が11件と多かったが、3件を20万円に減額して採択した。また「羽後の嫁どり」は前年度22回助成事業で採択されたが、コロナの影響でビデオ制作の部分を実施できなかったということで、10万円を助成し完成してもらうことにした。

選考委員長は審査の総括として、プレゼンが分かりやすく、予算書がしっかりしていること、事業の継続性、具体性、コロナ禍の影響などに配慮したと話された。

募集、応募、採択状況

助成額	募集件数	応募件数	採択件数
「寄り添う市民活動」 上限10万円	0	0	1
上限20万円	10	7	8
上限30万円	4	11	5

10万円助成

団体名 羽後の嫁どり実行委員会（羽後町）
事業名 羽後の嫁どり誘客ビデオ制作

22回助成事業として「羽後の嫁どり」を実施したが、新型コロナの影響でプロモーションビデオを制作することができなかった。今回これを完成し、誘客ツールとして活用する。

20万円助成

団体名 秋田・由利本荘にかほウォーキング協会（由利本荘市）
事業名 檜山滝・法体の滝ジオパークさんぽ路と百宅歴史探訪ウォーク



10月17日～18日に、ウォーキングを実施する。由利本荘、にかほを中心に、県内から70人、北東北隣県10人程度の参加を見込む。コロナ禍でストレスが大きくなっているが、事業の実施により市民に元気と活力を呼び戻したい。

団体名 チーム・ダンスセラピーAKITA（秋田市）
事業名 ダンスセラピーで誰もが踊って、つながって、癒されて

芸術療法であるダンスセラピーは、人とのつながりや心の開放をもたらすため、身体だけでなく心へも作用する。コロナ禍で人々の不安や閉塞感が高まっている中、オンラインでダンスセラピーを行うことで、人々の心とからだの双方の健康の維持を図る。

団体名 明德館こんわ会（秋田市）
事業名 活動PR及び会員募集

読書推進事業を実施している団体。コロナ禍でこれまで開催していた事業が実施困難となっている。ホームページを開設し、活動のPR、「朗読と音楽の集い」のYouTube配信を行うことで、会員募集、活動拡大に繋げる。

団体名 ばそらいふ秋田（秋田市）
事業名 3密を避けるインターネット活用

コロナの影響で多くのサークルが活動を開催できない状況にある。サークルの代表者等を対象にWeb講習会を開催する。「ZOOM」や「TeamViewer」、テレビ電話の使い方等の講習を実施し、サークル活動を円滑に行うことができるようにサポートする。

団体名 秋田パドラーズ（秋田市）
事業名 屋外でマスクなしで、思い切り楽しく親子でクリーンアップとカヌー



川の上で距離を取って乗るカヌーはコロナ禍でも制約なくできるスポーツ。その利点を活かすと共に、川に行けば目につくごみのクリーンアップを実施することで環境問題の解決にも繋げる。

団体名 秋田育さぼドリームエンジェル（秋田市）
事業名 今だから『つなごう・つながろう』

旧川添小学校の2階で、多世代交流事業を実施しているが、コロナ禍で地域のコミュニケーション不足が深まっている。地域公民館や広場、集会場と Web で結んでの交流、地元雄和の風景を Web で発信等により、人と人とのつながり、コミュニケーションをとっていききたい。

団体名 NPO法人 eナビステーションりあん（能代市）
事業名 今だから「見える化ライン」で家族も地域も絆を深めよう！

オンラインによるコミュニケーションスタイルを「見える化ライン」と名付け、地元高齢者と遠隔地の親族との連絡、交流をスマホやパソコンで行うことができるように、各種ネットセミナーを開催する。そのための必要機器等を整備し、見える化ラインの充実を図る。

団体名 ^{あかり}灯をともし会（秋田市）
事業名 ココラボ・語りとギターの夕べ



新型コロナ感染拡大防止のため、文化活動が止まっている。コロナ禍での新しい表現の場を創り、新しい方法での公演を試みる。「ココラボ・語りとギターの夕べ」をココラボラトリーで9月から12月まで4回実施する。

30万円助成

団体名 こまちハート・オブ・ゴールド（湯沢市）
事業名 地域住民（高齢者向け）スマホの使い方&SNSセミナー

湯沢市雄勝スポーツセンターは、高齢化が進む過疎地域にある。コロナ禍で地域住民のコミュニケーションが減少している。地域の高齢者向けに、スマホの使い方やSNSの活用方法、オンライン講座などを学ぶ機会を作る。新たなコミュニケーションツールを知ってもらうことで高齢者など情報弱者の孤立といった社会問題を解決したい。

団体名 Hachi LAB（八郎潟町）
事業名 げんき・元気 VIVA 八郎潟！
VA

コロナ禍による移動自粛は、地域の経済に大きなダメージを与えている。今回 Hachi LAB が中心となり、町内の NPO や商店街、婦人会、老人クラブ等が連携・協力するイベントを開催する。八郎潟町が一体となって実施することで、コミュニティの活性化に繋げていきたい。



団体名 地域共生事業企画ねこの手もかりたい（湯沢市）
 事業名 感染症社会の中で、自分や愛する人、大切な人を守る意欲と技術、そして明日を生きる力を育む
 キャンプと野外活動事業

コロナ禍により夏に楽しい思い出をつくるができなかった家庭や、野外活動になじみの薄い家庭、様々な理由で親子で一緒に過ごすことのできなかった家庭等を対象に、10月、11月にキャンプを実施する。募集は10家族。自分の力で家族や大切な人を守る事ができる基本的な知識と技術を身に着ける機会となる。

団体名 つぎ なにつくろう！実行委員会（横手市）
 事業名 つぎ なにつくろう！in Zoom



子どもたちに手を動かして経験する楽しさを感じてもらいたいという趣旨で、「つぎなにつくろう！」を実施している。コロナで例年通りの開催が難しいので、オンラインで行う。11月29日、秋田公立美術大学、秋田県立大学、わけしゅう秋田会議の協力を得て、Zoomを使って主に自然素材で作る体験をしてもらう。Zoomなので参加できる範囲が広がりイベントの知名度が広がる事が期待される。

団体名 みらいの学校（羽後町）
 事業名 こちらオンライン帰省うごまちステーション

コロナ禍で若い人たちが帰省できず、地元の高齢者と疎遠になっている。当会でオンラインツールを使って交流できる「オンライン帰省ステーション」を開設、高齢者宅で通話したり、事務所で通話したりできるようにする。高校生などの協力スタッフを育成し、機器購入・設定を行って、オンライン帰省を生み出していきたい。

ありがとう
 ごまいます

※敬称略、順不動、お名前の公開許可を頂いた方のみ掲載します。

あきたスギッチファンド寄付者一覧（2020年4月～8月）

団体・企業等	みちのくコカ・コーラボトリング株式会社、ダイドードリンコ株式会社、株式会社伊藤園秋田支店、サントリービバレッジサービス(株)秋田支店、秋田県南 NPO センター、秋田ロータリークラブ、秋田県職員消費者協同組合、奥羽住宅産業（株）、紡ぐ人実行委員会、スギッチ応援隊、スープホリック
個人	武藤馨、堀井啓一、北嶋正、佐藤裕之、高井宏司、天雲成津子、田村健、伊藤晋宏、小林祐子、菅原勝康、菅原拓男、伊藤綾子、田畑薫、堀田一弥、佐藤文枝、畑澤貴美子、藤原睦子、藤原勝耕、富樫嘉津恵